令和三年度夏期平和事業 講演会資料

大牟田市立三池カルタ・歴史資料館 □主 催

大牟田の空襲を記録する会

令和3年8月1日(日)15:20~16:30 場 大牟田市中央地区公民館 2階研修室A 口会

大牟田市原山町13-3 0944-53-1502



「米進駐軍の見た大牟田・熊本のカラー映像」

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 髙谷和生

- 1 はじめに 〜私と太平洋戦争開戦80年の様相〜
 - □戦後世代としての「私の視点」
 - □近現代考古学との出会い
 - □新たな視点での「熊本の歴史像構築」の必要性
- 戦争遺跡・遺産と空襲・戦災 全国・九州の動向 配布資料 啓発リーフレット 『M76焼夷弾と熊本空襲』、 『空襲下の熊本』、 『軍都熊本の残像』
 - (1) 戦争遺跡とは
 - □全国の戦争遺跡は「約50,000」件、指定登録は「305」件 2020年8月現在
 - □『大牟田・荒尾の戦争遺跡ガイド』大牟田の空襲を記録する会 2000年
 - □『大牟田の戦争・空襲 遺構・遺跡ウォーキングガイド』大牟田の空襲を記録する会 2017年
 - (2) 福岡県教育委員会での戦争遺跡悉皆調査

資料 1

□「福岡県内の戦争遺跡の適切な保護の推進」のために**『福岡県の戦争遺跡』**悉皆調査として 三年間調査し、2020年3月報告。一次「904件」、二次「1,618件」

- 最終報告「遺跡624件、慰霊碑1,025件、合計1,649件」 □目的は、県内の「戦争遺跡の体系的整理と評価」を行い、「戦 争の記憶・記録を次代に継承」する。 ※文化庁補助金利用
- □近現代遺跡・戦争遺跡の「遺跡の周知化と保存活用」を図る。
- (3)『くまもとの戦争遺産』の刊行、『軍都熊本の残像』
 - □熊本県内戦争遺跡・遺産を詳述
 - □「くまもとの戦争遺産(戦争遺跡・遺構・遺物等)一覧」224件
 - □2020年「第42回熊日出版文化賞」を受賞
 - □『軍都・』大江渡鹿地区、清水地区の戦争遺跡・遺構の紹介
- (4) 熊本県での空襲状況「被害歴史」の調査
 - □熊本市東区画図町下無田神社横から不発弾「M76落下傘付焼夷 弾」の発見。2018年7月
 - □1945年8月10日米極東航空軍第5航空団第3爆撃群団所属の軽 爆撃機 (A-20・26) による熊本市街地「第2回熊本大空襲」資 料16枚の発見。2020年
 - □『戦後75年熊本空襲を語り継ぐ』平和憲法を活かす県民の会
- (5) 熊本県での敵機捕獲搭乗員、連合国軍俘虜労働の「加害の歴史」 の調査
 - □福岡俘虜収容所第一分所(熊本市健軍鉄砲塚)・健軍飛行場 等で使役
 - □福岡俘虜収容所第六派遣所(芦北町田浦)…東海電極株式会 社田浦工場で使役
 - □昭和20年8月7日「松橋空襲」に伴うB25機の鏡川河口への墜落、敵機捕獲搭乗員の処刑





- ③宇城市松橋町浅川に架か る旧国鉄「永代橋梁」橋 脚部への爆弾痕跡
- ④1945 (昭和20) 年8月7 日、鏡川河口に墜落したB 25機搭乗員。その後8月



①熊本市で発見された不発弾

「M76落下傘付焼夷弾」

②45年8月10日の熊本市河原

町電停付近への空襲状況

(6) 九州・山口地区の動向

- □「空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会」での取り組み
- □第8回は「長崎県大村市」で開催予定。11月27日(土)大村市総合福祉センター大会議室 これまでに柳川・久留米・玉名・出水・筑紫野・宮崎・北九州で開催 □地域の課題を、地域の仲間と丁寧に取り組む

(7) 全国の動向 ~戦争遺跡~

- □「第24回戦争遺跡保存全国シンポジウム東京・東大和大会」は、オンライン開催 □広島:最大級の被爆建物「旧陸軍被服支廠」建物3棟を保存!
- □沖縄:首里城地下「第三十二軍司令部壕の調査と保存・公開」の要望

進駐軍の見た大牟田・熊本 ~米軍は何を記録したのか~

配布資料 啓発リーフレット『進駐軍の見た熊本』。米海兵隊撮影で吉村陽夫氏提供「ながさ き原爆記録全集」及び昭和館提供「熊本の街並みと風景 その他」映像紹介

(1) 進駐軍フイルムとは

- □1995年羽仁進代表・市民団体「平和博物館を 創る会」で、戦後に米国海兵隊が撮影した長 崎被爆惨劇の映像を入手
- □米国国立公文書館より16ミリカラーフイルム 「1万6661フィート (3.25km)・約5時間・1121 カット」の画像
- □米海兵隊第2海兵師団ノーマン・ハッチ少佐 指揮下の複数映像班 (2D MAR DIV M OVIE SELECTION) で、同時に複数班 がスチール写真も撮影
- □1945年9月23日~11月10日撮影



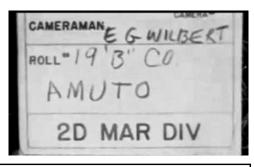
⑤大牟田での進駐軍歓迎の演奏

(2) 大牟田の撮影「三井染料工業所」

- □米海兵隊部隊への歓迎行事の様子、計67秒
 □演奏バンドは、三井染料工業所の三井染料軍楽隊で指揮者は「平島松敏氏」と想定
 □当初名称は「三井染料音楽部ブラスバンド」で代表・指揮者は大友雅晴氏(海軍軍楽隊出身)
 □服装はカーキ色の軍隊調、帽子には白線の社員章がつき、腕章は「○井染○」と読める。
- □撮影場所は三井染料工業所本部棟もしくは三井港倶楽部、10月15日と想定







⑥平島松敏氏の指揮様子

⑦三井染料軍楽隊の米軍歓迎演奏様子

⑧キャプションボード「AMUTA」

(3) 熊本の撮影

□健軍(熊本)飛行場

- □10月14·15日、施設接収状況、飛行機·武器類 CODE 657 の接収・遺棄・破壊状況の撮影
- □今回発見された16シッフイルムに撮影されたカラ 一映像(駐機する第百七十戦隊飛龍列機・横 全景) とスチール写真が合致
- □ここでは陸軍四式重爆撃機「飛龍」横シルエ ット、第一七〇戦隊の列機が金峰山系を背景 に並んだ様子、飛龍機首部と機銃装備を装備 し完全武装状況、百式指令部偵察機発動機拡 大状況、百式輸送機と百式司令部偵察機の駐 機、白地に緑十字旗マーキングした百式輸送 機と米軍ジープ映像が確認できた。

□三菱重工業熊本航空機製作所

□これまで米進駐時工場接収等のスチール写真 ・映像共に確認されていなかった。



⑨熊本(健軍)飛行場での百式輸送機の接収

- □敗戦時状況の撮影が目的と考えられ、10月15・26日。北側の給水塔や小規模建物群・長尺 工場建物(木工場)、工場南側の長尺工場建物・3本の煙突が近接する建物
- □国立療養所 菊池恵
- □撮影は10月27・23日もあり、敗戦後間もない菊池恵楓園の映像記録化が目的
- □菊池恵楓園家族舎縁側での11名の少年集合の様子、西側農園での農作業中の入所者の様子 家族舎南側縁側の様子、恵楓学園の門・看板・小学生用平屋建物の様子、146畳敷き大広間のある公会堂、菊池恵楓園英字看板「國立癩療養所 菊池恵楓園 National Leprosarium Kikutikeihuen」・正門の様子、旧事務本館では米兵と宮崎松記園長・下瀬初太郎看護部長 らの談話シーン

(4) フイルムの歴史的価値

□長崎原爆投下後最も早い45日目の「被爆初カラーフイルム」

□軍施設 健軍(熊本)飛行場、菊池飛行場、 第六師団各聯隊

接収状況、飛行機・武器類の遺棄に関わる カラー映像・白黒写真画像の記録

□軍需工場 熊本航空機製作所、東京第二陸軍 造兵廠荒尾製造所

接収状況、敗戦時状況の記録

菊池恵楓園 □ハンセン病療養所

日本におけるハンセン病入所の記録、進駐す る米軍兵士たちへのハンセン病の影響をはかる 衛生環境調査、日本統治での宣撫行動等では

- □「USSBS Mot. Pic. Pros」(米国国立公 文書館)の映像、昭和館・長崎放送・熊本放 送所蔵映像との対比
- □長崎原爆資料館・長崎平和推進協会写真資料 調査部会での白黒スチール写真の継続踏査



⑩熊本への移駐海兵隊の隊列 熊本駅前

まとめ

(1) 戦後76年目の「戦争の記憶・記録」をどう語り継ぐのか 〜県内の戦争遺跡資料館・平和資料館等の現状と見えてくる課題〜 □「菊池飛行場ミュージアム」 2015年、市民グループ「菊池(花 房)飛行場の戦争違算を未来につたえる会」が開設・運営。 地域に残された戦争遺跡・遺構等と併せての学び

□「東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所平和資料館」 2018年、市 民グループ「荒尾二造市民の会」が開設・運営。戦争遺構等 の案内と証言集刊行

□錦町立「**人吉海軍航空基地資料館** ~山の中の海軍の町にしき ひみつ基地ミュージアム」が、2018年開設。戦争や戦争遺跡を 美化したり、集客目的に利用する「戦跡の観光地化・商品化」 や「歴史事実の歪曲・矮小化」への危惧

- □戦後76年を経過し、「戦争資料(証言を含む)の山・混在」を
- どう把握し、整理・デジタル化して公開・活用するのか。 □くまもと戦跡ネットHP「上村真理子戦時資料室」約260点を、 デジタルデータで紹介
- □くまもと県内の戦争遺跡・戦時資料を対象とした「**くまもと戦争** 遺産デジタルミュージアム」開設に向けて
- □「デジタルアーカイブス」へ

(2) 市民グループ特性を活かした諸活動

「戦争遺跡の調査、保存・継承、活用」と保護啓発活動

- □戦争遺跡・遺産は、貴重な歴史資料であり「国民共有の財産 '文化財"」〔
- □地域の事情や特性に合わせての「近現代遺跡等の調査実施」 と「保護啓発」を!

⑪「第2回 くまもと戦争遺産の 旅」チラシ

〈第2回〉

一熊本の戦跡をめ

、証言者と戦争遺跡から平和を考える

□地域諸学校への「出前平和講座」の広がり

- □有明中学校・大浜小学校・市立玉名町小学校での「地域の戦争調べ学習・体験学習」を! □「くまもと戦争遺産をめぐる旅」等での一般向けの保護啓発活動。「旅のよろこび社」や「熊
- 日事業部」との見学ツアー開催
- □「SDGs」の16番目の項目「平和と公正を全ての人に」。戦争という大きな暴力を無くし、 世界の平和に向けて、持続可能な社会実現に向けて

福岡県戦争遺跡調査基本方針

1 必要性と目的

戦争の記憶・記録を次代に継承していくことは、第二次世界大戦後、平和国家 として再出発した我が国に課せられた非常に重要な使命である。

しかしながら、戦争に関する遺構と遺構に含まれる遺物であって、歴史上又は 学術上重要であるもの(以下「戦争遺跡」という。)があるにもかかわらず、そ の認識・評価がいまだ定まっていないという面もあることから、大戦終結後70 年以上が経過した今日、その多くが開発や経年劣化の進行により破壊や滅失の 危険にさらされている。

このため、福岡県教育委員会において、県内の戦争遺跡について悉皆調査を行い、戦争遺跡の適切な保護の推進に資するものとする。

2 対象・範囲

調査の対象は、明治元年(1868)から、第二次世界大戦終結時の昭和 20 年 (1945) までの間に、土地(海域を含む。)に形成された構築物等のうち、次に掲げるものとする。

- ①政治・行政関係:陸軍省、海軍省などの地方官衙、師団司令部、連隊本部その他の部隊関連施設、陸軍病院、陸軍学校、研究所など
- ②**軍事・防衛関係**:要塞(堡塁・砲台)、高射砲陣地、飛行場、陸軍演習場、練兵場、通信所、軍港、洞窟陣地、特攻基地、退避壕、試射場など
- ③生産関係:陸軍造兵廠、航空機製作工場その他の軍需工場など
- ④戦闘地・戦場関係:空襲被災地、被災痕跡(弾痕・爆弾穴)など
- ⑤居住関係:防空壕、俘虜収容所など
- ⑥埋葬関係:陸軍墓地、海軍墓地、捕虜墓地など
- ⑦交通関係:軍用鉄道軌道、軍用道路など
- ⑧その他:航空機の墜落跡、記念碑、慰霊碑、忠霊塔、忠魂碑、戦没者記念碑、 奉安殿、軍馬塚、境界標など
- ※上記に関連して、通常の発掘調査による遺構・遺物の事例も取り上げる。

3 組織・体制

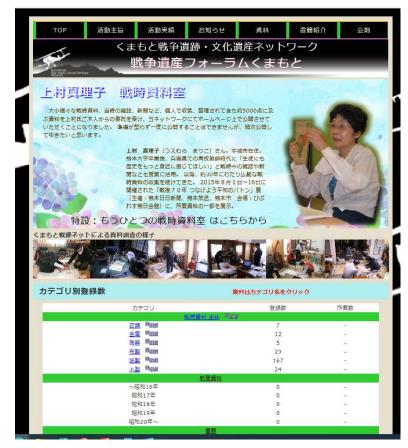
- ・調査は、文化財保護課と九州歴史資料館が連携して実施する。文化財保護課 は事務手続と事業の統括を、九州歴史資料館は調査をそれぞれ主たる任務と する。
- ・調査の対象、方針やスケジュール、遺跡の評価に関して、学識経験者から指導・助言を受けるため「福岡県戦争遺跡調査指導委員会」を設置する。





- ②「福岡県戦争遺跡調査基本方針」の抜粋
- ⑬橋市・築城海軍航空隊「稲童1号掩体」の調査・指定と整備 ・ ⑭北九州市・「矢筈岳堡塁」の公園整備状況

[資料2]





⑮くまもと戦争遺産・文化遺産ネットワークHP 上村真理子戦時資料室 TOP画面、資料画面